

あい・らぶ・こせ

こせ・コスモロジー⇔こせもろじー

小瀬まちづくり提案

07.Oct.2005久保田要

小瀬のせせらぎは生き物の宿る瀬

健康づくりの国際都市

「実りの健康ゾーン《医・食・住 持続可能な混在循環型》」

- *無理なく身の丈にあったバランスの取れた成熟型の地域形成手法は。
- *今ある宝は何であろうか？（人・もの・場所・金・事柄・情報・・・）
- *人にやさしいまちは自然にもやさしい！
- *どんなまちを創ってゆくのだろうか！
- *個の所有から共有（使用）へのプログラム。

それを持つことに（所有することに）矛盾を持っていないか。
どんな使用（共有）形態が望まれるか、望みたいか。



整備しつつある社会基盤として、
近郊農業の基盤
スポーツ振興の基盤
医療・健康の基盤

神々の祭り 天津司の舞

お天津司様がぽっとりおくだりなされたらと、波間に姿が見え隠れする舞、不思議な祭りはこの地域の方々の郷土の祭りとして永く伝承されてきた。五穀豊穡と、かつて氾濫した河川を静める為の静かな祭りである。

古より甲斐の国は水との戦いの歴史であった。その象徴として天津司の祭りは、天津司神社より、水の神様（鈴宮諏訪神社）まで御幸される。

それは五穀豊穡を祈り、水の神をはじめとした神と人との交信（共振・シンクロ）の場である。

神々の祭り 天津司の舞
（国の重要無形民俗文化財）
御幸渡御神遊舞

太古、甲府盆地は湖水だったと伝えられます。住古より甲府市小瀬町鎮守諏訪神社と天津司社に伝承されている「天津司の舞」は、わが国最古の人形芝居であり、人形劇の始祖的存在と称され日本民俗文化史上不滅の貴重な文化遺産になっています。（昭和51年3月26日 国の重要無形民俗文化財に指定される）

九体は(1)一のササラ、(2)二のササラ、(3)一の太鼓、(4)二の太鼓、(5)一の鼓、(6)一の笛、(7)鹿島様、(8)姫様、(9)鬼様と呼ばれているが、それぞれ別々に神名が記して天津司社のご神体です。

人形はピンザサラ、太鼓、鼓、笛と日本古来の楽器と楽人を模してはいますが、実際の踊子は太鼓と笛のみです。

幕の中で舞手と囃子方総勢約30名ほどで行います。舞は単純に幕の中を二回めぐり、次に狂いの荒い所作を行います。

遠い昔、十二の神々が天から降り水面で舞遊んでいました。湖底が現れた時二神は天上に昇り一神は古井戸に沈みました。

後の世に、残る九の天津神を神像に作製（約900年前 平安時代の作）諏訪神社に勧請鎮座させておいたものを、大永二年（483年前）に武田民部が天津司神社を建立改修してより、天津司神社から諏訪神社を御幸して神遊舞を奉納する神事が執行される慣例となつたと推論されています。傀儡田楽の一種である人形による舞は、その音、神々が水面で舞つたものの再現だとされ、遠い祖先が残してくれたかけがえのない素晴らしい祭として、国指定重要無形民俗文化財に指定されており、現在、保存会メンバーは約230名。今年も、盆地が桃源郷と化す4月10日（日）平安の雅びが再現されます。

御船と呼ばれる白幕（九曜の紋を染めた）を張った舞台上で人形が舞踊る。「一の舞」から「姫と鬼」の五の舞いまで約40分。五穀豊穡と、かつて氾濫した河川を静める為の静かな祭りである。この田楽を人形が演じたものが「傀儡田楽 かいらいでんがく」と言われ中国から入り室町に流行りました。

濃りのぽっとりさん

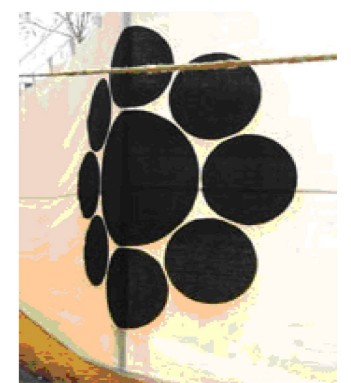
ここに、かつてより支えられ、培われてきた基盤の上に近郊農業経営が花開いている。旬な野菜や果物の市は、買出しに集まる人々で、あっという間になくなる売り手市場を形成している。

食のぽっとりさん

住（環境）のぽっとりさん

いま、小瀬地区・小瀬スポーツ公園は、毎日、健全な精神と健康に留意した人々が訪れている。健康の大切さに気づいた人は、黙々と体力と精神のバランスをとるかのよう、健康やかな動きをしている。

また、小瀬スポーツ公園でJ・リーグ（バンフォーレ甲府のホームグラウンド）の定期的な対戦試合が行われ、他県との交流の拠点と化している。その他のスポーツの全県・全国的イベントもまちろんのことスケデュ



九曜紋
「天津司舞」の説明書には、「この九神像は俗に九曜を表すという」とあり、実際、社紋は九曜紋である。

この『九曜紋』の持つ意味とは、人は古くから、日月星辰の全てを信仰の対象にしてきた。九曜星とは「日、月、火、水、木、金、土」の七つの星に「羅目十候（らご＝不動明王）」「計都（けつ）＝釈迦仏」の二つをあわせたもので、これら九つの星が天体を支配し、自然や人事を司ると云われていた。星信仰（星占い）は、これらの星の動きを見ることで生まれたものである。別名「妙見（みょうけん）信仰」とも呼ばれ、多くの武士や庶民がこの信仰を持っていた。

「九曜紋」を家紋として用いる理由の多くは、星信仰が根底にあることに他ならない。

九曜は古代インドのト占に使われた、日月火水木金の7星に羅（目候）・計都（けつ）の2星を加えたものです。

九曜紋は鎌倉時代にすでに家紋として使われており、初めて家紋として使ったのは上総から東北地方まで勢力のあった千葉氏であります。また細川家も九曜紋であります。

医のぽっとりさん

健康ゾーンとして、甲府市立病院は甲府東南部地域メディカルネットワークの中核として機能しつつある。またモチベーションの高い専門医たちが地域医療・予防医療に貢献している。

